

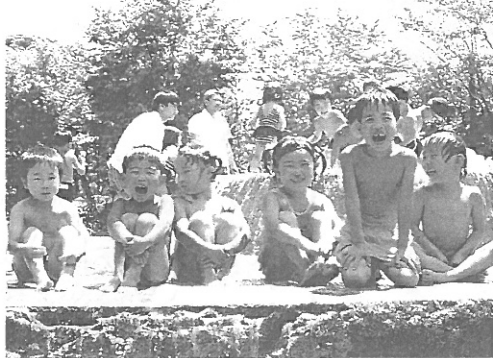
# 明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会  
発行日/2000年10月28日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

34号

秋も深まりました。各々の運動会、家族そろって楽しめたこと  
と思います。日頃希薄になりがちなコミュニケーションも一時と  
りもどして、家族だんらん会話も弾み、盛り上がったのではない  
でしょうか。この夏、近年珍しく高校生のボランティアの申  
込殺到、園児との交流がありました。少子化時代に新しい取組み  
が求められているのでしょうか。昔の高校生とは一味ちがう爽や  
かさにふれ、職員たちも我が子におきかえ暖かく迎えていました。  
今年例年より1か月早く来春の入所申込みが始まります。児童  
福祉法の改定後、厚生省の保育政策は大きな転換を始めた。  
国民の保育要求に応えようという側面と同時に、制度改善(公の  
責任と費用の削減)になりかねない危険な側面を見えています。  
規制緩和による企業の参入も始まりました。女性の社会進出や家  
庭・地域の子育て環境の変化の中で夜間・休日保育や一時保育な  
どさまざまな子育てへの支援が必要になっていますが、コストダ  
ウンで保育の水準は守れるのでしょうか。心配です。(H・N)

## 在園父母交流会



陽光保育園父母の会では、各クラスごとに父母の交流会を  
行っています。クラス担任や、もちろん子どもたちもまじ  
えての交流会です。ピクニックへ出かけたり、山登りをし  
たり、乳児のクラスでは、みんなで食事をしながらおしゃ  
べりするなど、どのクラスでも親睦を深めるのが目的です。  
写真左側は4歳児クラスの父母交流会で、7  
月30日に北区・飛鳥山公園に行きました。公園内の池で、  
子どもたちは水しぶきをあげて大喜びです。  
写真右側は水しぶきをあげて大喜びです。公園内の池で、  
園内集会所で父母交流会。おしゃべりに花が咲きました。

## おいでよ保育園

### 後援会交流会



一九九九年夏、大谷口水道タンクの銀杏並木でお母さんたちといっしょに始めた青空保育。  
陽光保育園のシンボルマークは「ひまわり」です。子どもたちが太陽にむかって元気に育っ  
てほしいという願いをこめて、陽光保育園は五〇年前に誕生しました。  
いつの時代にも子どもたちを主人公に、一人ひとりを大切に  
保育の仕事をしています。また、子どもを預かり、保護者の  
就労を支援するだけでなく、親子関係づくりの支援、親同士  
の仲間づくりの支援も大切にしています。昨年、大きく変化  
している子育て環境のなかで、陽光保育園は地域のみなさん  
のご支援を受けながら、「明日にむかって」歩きつづけます。

★**手をつなぎ心をつなぐ親たち**



陽光保育園後援会では、春にはお花  
見、夏には海水浴か山登り、秋には  
ハイキングと、年3回、交流会を行  
っています。在園・卒園の父母と子  
ども、現・旧職員もまじえての交  
流会、いつも大勢の参加があります。  
写真上=今年の夏も千葉県鶴原の海  
に行ってきました。大人もたくさん  
いるので、小さい子を連れていっ  
ても安心と、毎年好評です。

## はじめての保育園

忘れもしない入園式の日。不安な気持ちで  
一杯でした。「3歳くらいまでは母親とい  
るべき。預けるなんてかわいそう」。そんな考  
えを持っていたので、家庭の事情で1歳で保  
育園に入園することになった息子に罪悪感す  
ら抱きつつ、トボトボと保育園に向かいま  
した。保育園は「さみしそうな顔をした子ど  
もたちの集まり」と思い込んでいたのです。  
それが、入園式でのあの笑顔、歌声、リズム。  
驚きました。「間違った先入観を持っていた  
のかな……」。そして始まった園生活。先生  
方やママたちのおしゃべり、楽しい出来事  
が書かれた『あゆみ』(連絡ノート)、子ども  
同士の交わりを見るうち、働きながら子育て  
することが自然に思えてきました。陽光保  
育園に通いながら、息子とともに自分も育っ  
ていくことが自然のことに思えてきたのです。  
今でも毎朝ぐずる息子ですが、お迎えの  
ときはなかなか帰ろうとせず、陽光が大好き  
のようで、私もそれがとても嬉しいのです。  
(1歳児クラス・瑞樹の母 星屋真理子)



5歳児の絵

## はじめての保育園

この春やっと入園できた我が息子。  
しかし、喜んでばかりもいられない。  
彼は生活のすべてを周囲に依存している  
ため、突然保育園に放り込まれたらどう  
するのかわからない。先生方も一  
人対大勢のだから、息子だけにかまけ  
てもいられない。正直言って、細やかな  
サポートは期待できないと思っていた。  
不安のまま入園式。在園児の披露してく  
れた歌声は、圧倒されるばかり。  
息子にいたっては驚いてイスから転げ落  
ちる有様で、情けないことこのうえない。  
そんな息子が通園しはじめてまもなく、  
「何でも一人でできる園児」に急成長を遂  
げた。先生との会話のなかから、こま  
で根気よくつきあってくれるのかと感心  
させられることがしばしばあり、こんな  
ことなら入園を見送った娘(当時0歳)  
も預けるべきだったと後悔している。来  
春こそは、娘も陽光の子になってほしい。  
(3歳児クラス・凌の母 市川奈緒美)

## 卒園父母交流会



卒園したクラスでも、交流会を開きます。昨  
年卒園したクラス(及川とゆかいな仲間たち)  
では、今年の夏、松原村へ。年長クラスのと  
きにお泊り保育をした民宿森越で2泊3日、  
山登りや川遊びを親子で楽しんできました。

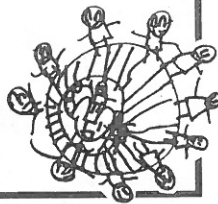


毎年夏と冬に行われる陽光保育園のバザー  
では、在園の父母にまじって卒園の父母も  
お手伝い。陽光保育園後援会でもお好焼き  
などを出店して、売り上げに協力します。  
普段ごぶさたの人と出会う、旧交をあた  
ためたりするのも、バザーならではの  
楽しみ。

## バザー

◆ごあんない  
◆陽光保育園後援会チャリティ公演  
マルセ太郎  
スクリーンのない映画館③  
「ライムライト」  
日時 2001年1月27日(日)  
開演18時30分予定  
会場 板橋文化会館・小ホール  
入場料 大 人3000円  
小中学生2000円  
\*保育あります。詳しくは陽光保育園  
までお問い合わせください。  
◆陽光保育園後援会・秋の交流会  
日時 2000年11月19日(日)  
場所 高麗・巾着田  
\*山登り、アスレチックなどを楽しん  
だあと、川原で鍋をかこんで交流。  
皆様の参加をお待ちしています。  
◆冬のバザー  
日時 12月3日(日) 10時~14時  
場所 陽光保育園  
◆地域共育講座  
2001年6月2日、佐々木正美氏  
(児童精神科医・川崎医療福祉大学  
教授)を講師におよび開催予定。  
詳しい案内ご希望の方は、ご一報く  
ださい。  
◆卒園式  
2001年3月20日(祝)、9時開会。  
於: 陽光保育園

# ボランティアの 若者から見た 陽光保育園



陽光保育園では、毎年夏にはボランティアを受け入れていきます。今年の夏は三〇度を超える猛暑がつづきましたが、その暑いなか、一八名のボランティアさんが来てくれました。高校生、専門学校生など、保育園の仕事に興味があったり、子どもが好きだからという若者たちも、男・女です。職員の子ともいければ、その知り合いの子とも同級生、卒園児や板橋ボランティアセンターからの紹介など、さまざまです。

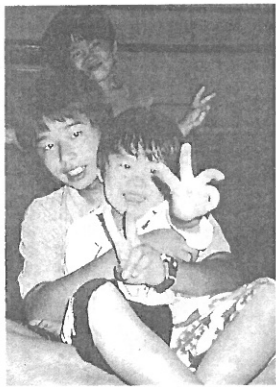
一方、保育園の子どもたちはといえば、若い人、新しい人が大好きで、どんな遊びをしてくれるのだろうと、興味津々、積極的にかかわっていきまづ。プールの中から水をひっかけたり、前から後ろからとびついたりして、反応を確かめます。

ボランティアさんたちには、「だめなことはだめと行ってね」「いやなことはやめさせていんだよ」と話しますが、「だいじょうぶです。楽しいですよ」と返ってきます。

茶髪だったり、ピアスをしていたり、携帯電話を手離さなかったりと、「いまどき」の若者であることにちがいはないのですが、みんな、まっすぐに素直に育っている若者ばかりでした。保育園での経験が自分探しのきっかけに



保育園の子どもと遊ぶボランティアさんたち



だっこもたくさんしました

## 陽光保育園の仕事についてどう思いましたか？

●子どもが積極的に楽しく生活できるように、子どもの意思を大切にしているなあと思えました。

●わけへだてなく、たくさん子どもがたたく先生のふれあっていて、保育園がひとつの家族のように感じられました。

●自分でできることはやらせる、という考え方はすごいなあと思えました。今の子どもはあまり外では遊ばないと聞いていましたが、陽光保育園の子どもたちはとても元気にプールや砂場で遊んでいて、すごくいいと思いました。

●とてもハードで大変だと思いました。でも、子どもが笑ってくれたり、心を開いてくれたときは、もう本当に感動しました。

●最高！(陽光保育園の保育士は)おもしろくて、やさしくて、今の学校



1歳児も自分で靴をはきます

## 保育園の子どもたちの印象は？



●のびのびと元気よく、子どもらしい生き生きとしていて、自主的に活動しているのが印象的でした。

●初めてなのに人見知りもせず、すぐになついてくれた。

●自立したい心と甘えたい心が共存しているなあと思えました。

●こっぴどい話しかけなくても話しかけてくれたのがうれしかった。

●みんなすごく元気で powerful で、なによりカワイイです。  
●一歳はもっと赤ちゃんのかと思っただけ、意外と先生方の言っている

の先生とちがって何かこうあたたかみがあるというか、友達のように子どもたちと触れあいながらも、リーダーシップをとっているところがすごい。給食、ヤバウマイ!! やっぱ保育園ってイイなあ……。

●全部やってあげるのではなく、できることは自分でやらせるということに驚いた。今まで、赤ちゃんはだっこして、あやして、かわいがらだけだったけど、この保育園で仕事をしてみても、子どもを尊重してあげていることがわかった。

●先生方も明るく元気で仲良しで、すごくいいなあと感じました。子どもに対して、ダメなものはダメと、はっきり目を見て言っていて、ものすごく愛情を感じました。子どもに対する先生方の接し方がとても勉強になりました。少し大変でしたが、疲れたと感じた日は一日もなく、充実した日々でした。楽しかったです。

## 子どもの心が見えますか

— 広木克行さんの講演より

2000年9月23日  
大宮ソニックシティ

広木克行さんは、長崎総合科学大学の教授で、一五、六年にわたって、不登校を考える親の会と学びあってこられた方です。カウンセラーもされていて、たくさんの子どもの心が救われてきました。「子どもの心が見えますか?」思春期を見とおした子育て」と題された講演はとても心に残るものでした。その一部を抜粋してご紹介します。

1. 教育改革国民会議の中間答申はとても深刻な内容になっている。道徳を教科にして評価の対象とすること、奉仕活動の義務化など。「問題のある子」は排除してもよいとまで書かれている。
2. 少年事件の件数は昨年より減少しているものの、内容は凶悪になり、殺人が増えている。凶悪事件の根っこにある、子どもの内面を見ることこそ大切。子どもの発するシグナルは次の四つに分けられる。
  - ① 活動的な行動化(暴力など)
  - ② 内面的な行動化(不登校、自傷行為など)
  - ③ 内面の危機を表面に出す(拒食、過食など)……親に否定されると治らず、受け入れられることで自分をコントロールできるようにする
  - ④ 人格障害的行動化(凶悪事件になる)……自分の中のもう一人の自分に命令されて、常識をこえた行動に出る子どもの発するシグナルを見て、大人がそれを受けとめることをせずに治そうとすると、子どもは心の葛藤を越

えることができず、人格障害的行動に走るのではないかとオウムの事件やシミュレーションハイジャック事件など、この例ではないか。これらの事件を起こした若者は、そのうなる前、たくさんシグナルを発していたはず。子どもの行動しか見ていないと、シグナルをキャッチできない。親は子どもの心を見るようにすることが大切。サン・テグジュベリの「星の王子さま」でも、「ほんとうに大切なものは目に見えないもの」と言っている。

3. 子どもの状況が深刻なときは、児童精神科医に相談することで、子どもの心が見えてくる。親は、相談する勇氣が必要。

また、子どもの心を見るためには、子どもの話に耳を傾けること。それも、親の聞きたいことだけ聞くのではなく、ただどくどくでも、子どもの話したいことをしっかり聞き耳をもつこと。「忙しいから」とか「何が言いたいのか」といった言葉は、子どもの心を閉ざすことに。忙しいときは、子どもの目をしっかり見て、「あとで聞いてあげる。それでもいい?」と確認すること。聞いてくれる姿勢を見たことで、子どもは安心するのだから。

見えないものを見るためには、その気になって学び、その気になって見なければなりません。これからは学びつづければと思った講演会でした。

(保育士・高田礼子)



## 子どもとともに父も成長

「リンリン」。毎日、マウンテンバイクに乗り、長男大海をお供で保育園に登園することから私の一日は始まります。大海の送り迎えは私の役割のひとつです。昨年未だに大海が生まれるまで、いえ、五月に大海が五月で陽光保育園に入園するまで、正直、自分のそんな姿を想像していませんでした。

多くの父親の例にもれず、子育ては母親の仕事を考えがかったのかもしれない。しかし、子どもや保育園と身近に触れるにつれ、私は子育てに関わる小さな幸せの数々を感じるようになりました。小さな歯が生えはじめたとき、お座りができるようになったとき、私を後追いつくようになったとき、そして大海のクラスメイトが私に近づき笑ってくれたとき……、みんなかわいいです。子どもの成長とともに、親としての私も成長しているようです。

いまや母親である妻よりも長い時間子どもに関わっている私に、妻はやくもちをやいているようです。なぜなら、大海は私にとてもなついていてからです。私も少々、得意な気分です。たまに子どものあやし方にケチをつけると、妻は怒りだす始末です。

妻が仕事から帰ると、数時間ぶりの大海との再会を楽しむため、私はしばらく子どもから解放されますが、すぐにまたお父さんの出番です。大海を寝かせるのです。これも私の得意分野です。

こうして、長い(?)一日が終わわり、子どもの寝顔を見て、小さな幸せを感じつつ、私もいっしょに寝てしまいます。まだ一〇時前だというのに……。また明日も、朝からお父さんの出番です。(〇歳児クラス組・大海の父 石井正幸)